

地域包括支援センター名称	日時	参加者(関係機関等)	数	テーマ/目的	検討結果
北町	R1.7.12	民生委員、町会・自治会、老人クラブ、介護サービス事業所等	38人	【テーマ】 地域の皆さんと介護事業所が一緒につくる地域 【目的】 地域の「社会資源」を改めて見直し、今後の活動に活かす。また、「地域課題」や「地域ニーズ」を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地域を6グループに分け、グループワークで検討。用意した「地図」に地域活動や民間サービスの情報を記載し、それらを一つにまとめる作業を実施した。 ・地域で生活している民生委員、自治会・老人会関係者から多くの地域情報を提供していただくことができた。逆に、介護サービス事業所の方々は、それらの情報を知らない方も多く、新たな発見につながった。
練馬キングス・ガーデン	R1.6.12	民生委員、町会・自治会、訪問支援協力員、傾聴ボランティア、社会福祉協議会、介護サービス事業所、薬剤師、新聞配達業者、街かどケアカフェ等	42人	【テーマ】 社会資源について 【目的】 地域で「暮らす」「働く」「活動する」という視点から、民生委員、町会・自治会、見守りネットワーク協定団体（コンビニ、信用金庫等）、介護サービス事業者との間で広く地域課題を共有し、地域課題の解決に向けた検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで出された様々な「社会資源」は、お互いに知らなかった情報の「共有」ができ大きな成果であったと同時に、参加者も顔見知りの関係となり繋がりを深めることができた。 ・「病院や医師にも情報の共有をしてもらえると良かった。」「ケアプラン作成において重要な社会資源を知ることができた。」などの意見があった。
田柄	R1.6.24	民生委員、町会・自治会、訪問支援協力員、介護サービス事業所等	50人	【テーマ】 虐待予防と早期発見、高齢者の居場所づくり 【目的】 光が丘圏域の高齢者虐待の現状と練馬区の虐待対応を把握し、事例検討を通して虐待予防と早期発見のための地域づくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者虐待の情報共有が難しい。」「気になっている近隣のケースについてどのように関わっていったら良いかわからない。」などの意見があった。 ・会議を通して区が取り組む施策を知ること、高齢者虐待の現状について把握するとともに、地域の見守り体制の強化に繋げることができた。
練馬高松園	H31.4.25	民生委員、訪問支援協力員、コンビニエンスストア、薬局、宅配弁当業者、図書館、介護サービス事業所、消費生活センター、警察署、司法書士等	39人	【テーマ】 消費者トラブル予防に関して地域でできること 【目的】 地域包括ケアシステム構築のための話し合いの場として、地域の多様な機関や団体から出された意見を区の施策へ反映させるとともに、顔の見える関係作りを行うことで、地域課題の解決に向けた支援ネットワークの強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者トラブルの現状等について、消費生活相談員、警察署、司法書士の方々よりそれぞれの立場から講話をいただいた。 ・「福祉関係者や地域で高齢者がよく行く場所(コンビニ、薬局、図書館など)での見守り体制を強化して、見守りのネットワークを作ることが大切である。」などの意見があった。 ・それぞれの立場で、高齢者の見守りに何が出来るかについて、今一度考えるきっかけになった。
光が丘	R1.7.31	民生委員、光が丘地区連合協議会、ボランティア団体、住宅供給公社、消防署、介護サービス事業所、社会福祉協議会等	72人	【テーマ】 「地域の課題を地域で解決していくために」 ～人と人、地域がつながるために私たちにできること～ 【目的】 「地域の課題を地域で解決していくために」人と人、地域がつながるために、私たちに何が出来るかを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のセンター会議は、地域の方々のご意向により、自治会、民生委員の方々の代表と2回の準備会を重ね、実施した。 ・「引きこもり問題を取り上げてほしい。」「皆同じようなことを感じ、困っているのだと感じた。」などの意見があった。 ・地域包括支援センターが、皆様からお寄せいただいたご意見をとりまとめ、それらを地域に返すとともに、地域の課題を少しでも解決出来るよう取り組む必要がある。
高松	R1.6.12	民生委員、町会・自治会、慈雲堂病院、陽和病院、介護サービス事業所等	32人	【テーマ】 練馬区の認知症施策について 【目的】 練馬区の認知症施策および専門病院の機能について、地域関係者への理解促進を図るとともに、地域課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症初期集中支援推進事業」について、認知症専門相談や認知症疾患医療センター等の機能に関する理解が進んだ。 ・ケアマネジャーが抱える事例や地域の課題を把握することができた。また、民生委員との懇談では、地域の見守りを必要とする世帯について、情報共有が図れた。 ・「専門病院の話が聞いて良かった。」「事例についてもう少し話を聞きたかった。」などの意見があった。
第3育秀苑	R1.7.30	民生委員、東京大学(コンビニ協働プロジェクト)、行政職員等	10人	【テーマ】 遊びをとおして認知症を学んでみませんか? 【目的】 コンビニ従業員向けに開発された「N-impro(ニンプロ)」の体験を通して、地域で活かせるようなことをグループで話し合い、全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者自身が持っている認知症の方への考え方や対応について、自分と違った意見を聞くことで改めて考えることができ、認知症への対応力や理解が深まった。 ・「ニンプロを通じてコンビニの概念が変わった。コンビニには見守り機能もあり、高齢者にとってホッとできる場所である。」「民生委員用のニンプロを作りたい」など、地域で活用できそうな意見も出た。